

平成 24 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	54	地域資源を活かして、他地域と交流する	評価責任者 (基本施策主管課長)	企画財政部企画課長 藤山 善之
生活課題	地域の資源を活かした交流が広がっている		生活課題に対する満足度 H27目標値	46.0 %

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系		基本目標	共生・交流
		政策	郷土愛を支える交流のまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>市民意識調査では、基本施策における生活課題として「地域の資源を活かした交流が広がっている」に対する満足度は15.1%で全体の平均より下回っており、昨年度から8.5ポイントのマイナスとなっている。また、基本施策「地域資源を活かして、他地域と交流する」に対する必要度は65.0%で平均を下回っている結果となっている。</p> <p>参考 満足度（満足意識） 15.1 % 必要度 65.0 %</p>	
③	基本施策の現状と課題	①多くの歴史遺産や歴史文化ミュージアム的な要素を持っている。 ②歴史街道として初瀬街道、伊賀街道、大和街道があり、沿道沿いにはロマンを秘めた史跡や遺跡が残っている。 ③松尾芭蕉の生誕地、伊賀流忍術発祥の地としての歴史文化を活かした交流を進め、全国への発信が必要である。	
④	基本施策の意図、今後の展望	歴史文化や産業特性などの地域特性・資源を活かし、広く諸地域との多様な交流事業を推進する必要がある。 大津市など松尾芭蕉ゆかりの都市との交流や生誕地としての全国発信 甲賀市との広域連携の推進	

⑤ 基本施策指標（総合計画数値目標）

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度			目標値		指標の説明
		H22	H23	H24	H25	H27			
1 盆おどり参加者数 (伊賀市から大津市)	目標		35.0	35.0	35.0	35.0	35.0		
	実績		33.0	37.0					
	達成率		94.3	105.7					
2 招待者数 (大津市から伊賀市)	目標		35.0	35.0	35.0	35.0	35.0		
	実績		15.0	17.0					
	達成率		42.9	48.6					
3 奥の細道サミット参加	目標		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	実績		1.0	1.0					
	達成率		100.0	100.0					
4 伊賀市・甲賀市広域連携推進委員会実施回数	目標		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
	実績		2.0	2.0					
	達成率		100.0	100.0					
	目標								
	実績								
	達成率								
	目標								
	実績								
	達成率								

⑥ 基本施策構成事務事業の評価

基本施策を構成する事務事業名	改善余地の有無	事業費（人件費込、単位：千円）			基本施策貢献順位		
		H23 決算額	H24 予算額	H25 所要額			
1 企画財政部企画課	100-1	都市間交流推進事業(大津市との交流)	有	3,736	4,111	4,111	1
2 企画財政部企画課	100-2	都市間交流推進事業(関連都市との交流)	有	2,915	3,155	3,022	2
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
(以下 続 紙)							
事業費合計				6,651	7,266	7,133	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業（総合計画実施計画の期間内に実施を予定する事業）

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	芭蕉ゆかりの地である大津市との交流は、芭蕉生誕350年(平成6年)から継続して実施しているが、限られた団体・内容(江州音頭市民連)となっているため、交流を継続するなかで、内容等を見直す必要があると思われる。奥の細道サミットへの参加については、伊賀市の文化を広く発信する機会として継続していきたい。甲賀市との連携推進については、地域課題への対応や交流連携の推進を継続する必要がある。カシオペアの会については、昨年度から3市の政策課題研究を行う団体への移行を提案し、甲賀市とのこれまでの連携推進の枠組みに亀山市を加えた取組みを検討しており、会としては休止状態である。
2 事業構成の適当性(手段として最適か?)	交流事業に要する費用を可能な限り削減し、継続して実施できる事業内容や体制づくりについて検討する。
3 役割分担の妥当性	都市間交流に関しては、一定、行政の役割のもと推進することが必要であるが、民間も含めた交流に向けて検討が必要と考える。
4 総合評価(今後の方向性、事業の見直しについて等)	目標値は概ね達成できるものであるが、マンネリ化している状況のなかで、再度、交流内容の効果・効率性を検証しつつ費用対効果の視点から検討をしていきたい。